

橋詰良一著

「家なき幼稚園」の主張と実際

より (七)

保育項目の細説

私の「家なき幼稚園」という子どもの国の一日々々、すなわち園の子どもの生活がどんなに行われているか、どんなことが主なものになっているかを知りたいと思わるる方もあると思いますから極々の概説をさせていただきます。

歌えば踊る生活 歌えば必ず踊ったりはねたりするようになって、すなわち歌だけを上手に歌わせる練習をしたり、踊りだけを上手にさせるための教練をしたりはしない。ただ歌わせながらのすからの催しに促されての舞踊をさせます。それを楽しませます。そのために先生も踊れば、お定番の姉ちゃん母ちゃんにも踊っていただきます。

お話をする生活 お話を聞かせて喜ばせることはもちろんですが、子どもからもお話を聞きます。互いに話し合い、聞きあつて、共に楽しむ生活を営むのですが、話術というようなことを先生に望まず、どんな初任の人でもできる方法によって感情を交換

してもらいます。話されなければおとき話の書物や雑誌などを読んで……。

お遊びを共にする生活 協同のお遊戯をすることも大切な生活ですが、自由に選びあつたお友だちと自由なお遊びをさせることも大切なお遊戯です。大切な幼児生活です。その生活に供するための遊具は何でも自由に使わせませす。

けれどもその取扱いは是非とも自分で運び出したら必ず自分で始末をさせます。

そしてこの自由生活のうちから、私が最初にいった「子ども同士の生活から得られる五つの要目」に触れさせたいと、祈るのです。すなわち、自覚、自衛、自省、互助、互業です。

回遊にいそむ生活 回遊とは、前にもいった通りわが園の大切な体育項目で自然に親しむことも、自然を観察することも、すべてこの項目を通じての企望としていのであります。回遊がいかにして行われるか的一端は後に添えてある日記の抄録からも想

像していただけると思いますが、『回遊』のうちに含まれている項目の

石つみ(川原や山地などでする自然創作で机の上の積木などに比すべきもの)

魚つり(取りにやらせるもので、モンテッソーリの感覚修練なものにも適したもの)

水遊び(夏季には特に自動車などで遠距離に送って実行しているもので、宝塚などは毎日の遊びになっている)

土掘り(これは粘土を掘って、その場で人形をつくりなどさせるものです)

草つみ(自然に親しむ教育項目のなかで、一番美しく、永久的なものです)

虫とり(動物を愛し、これを飼ってやるための遊びです、せみとり、とんぼとり、ちょうとりなど皆それで、特に声を聞いたりさせます)

鳥の声を聞く(ひばりや、うぐいすなどの声を聞かせるようにする導きです)

あげていけば限りもないほどたくさん項目が抱擁されているこの回遊を、是非とも理解していただくために、後に、日記のと

ころどころを抄録して置きました。

手技を習う生活 折紙や、糸取や、板ならべや、切ぬきや、いろいろの手技を楽しませるのです。保母としての教育をうけた女性でなければとてもできないと考えられる点は此の項目にあるようですが、私はさようにまでむずかしいものとして眺めたくはありませんのです。

家庭めぐり 池田家なき幼稚園の幼児のお宅招待―園児のお宅から招待されて、その日、そのところを幼稚園にして巡って行きますことは各地とも家なき幼稚園の親しい特色として喜んでいくところですが、池田の父兄がたは特にこれを喜んで下さいます。おやしきの広いお宅や、山野に近いお宅からはたえずご招待をいただきます。

注(次にあげられた家庭名には最初に家なき幼稚園をご紹介下さった柳瀬先生宅のお名前がたびたび見られます)

家なき幼稚園の一日

家なき幼稚園の一日、それがどうして暮らされているかを知っていただくために各園の実際にやった一日を、ところどころから抜き出して参考にいたしましょう。

◇池田家なき幼稚園

礼拝(お宮様で) 九時

お遊戯 九時十分—九時三十分

回遊 野原の広場へ十時—草花つみ、かくれんぼ

談話 十一時—十一時二十分

おべんとう 片付けて帰る仕度

帰園 一時

◇箕面家なき幼稚園

自由にお遊び 子どもがほほ揃うまで

朝のお唱歌及び遊戯 九時三十分—十時

回遊 (岸本様の別荘へ) 十時三十五分

お遊び 十時三十五分—十一時

お話 (親指小僧) 十一時—十一時十五分

お遊び 十一時十五分—十一時三十分

お弁当 十一時三十分—十二時

お遊び 十二時—十二時三十分

おうむやわしを訪れながらお帰り、十二時三十五分ごろから

ら帰途解散

◇大阪家なき幼稚園 (自動車)

四班の中の一の組案の一日

午前八時半 (第一集合所発の時間)

午前九時十分 (阿部野駟着)

この間の四十分から五十分までの自動車内の保育は種々あります。最も効果のあるのはお唱歌です。折り紙も簡単なものならできず。(速力が大変ゆっくりしているため、動揺が少ないです)

大阪の市中を毎日走っていても決してあかない子どもたちです。日々新しいものを見つめます、聴きます。これらに退屈を感じ出した子どもは色紙を折ります。お唱歌を歌います。時には英語のおけいこもします。充実した時間です、こんなにして阿部野にまわります。

阿部野橋発 午前九時三十分

矢田着 同 九時四十分

この間はただ窓の外を見て過ぎます。けれどもお客さんのほとんどない時は電車の内でもお遊戯を致します。変わった所で保育もまた思わぬ効果のあるものだと思います。本当に喜んで子どもたちは踊ります。けれども窓外の景色を見ているだけで充分の間です。時にはお客さんの方たちとおもしろく遊んでいただくともあります。矢田から園舎まで十分から十五分位がゆっくりした時間です。

午前十時 朝のあいさつ

午前十一時まで 今日のおけいこ

このおけいこは一週間のプラン通りやっています。けれども雨上りの美しいお天気の時等は特別にお花つみに変更することもございます。こんなにして都会にとじこめられている子どもたちにとつてのわずかの田園生活を意義あらしめるためにお家にいることはほとんどありません。お天気と相談の上予定もしばしば変えます。

午前十一時 昼食(約三十分)

午前十二時半まで 自由遊び

同 十二時三十五分 お帰り

同 十二時四十五分から五十分 矢田駅着

午後一時 阿部野着

同 一時五分 阿部野着

同 一時五十五分 最後の集合所着

次にご参考のために日記を抄録します。

◇恐ろしい日

茂子(箕面)

自然に恵まれた箕面の春はかほかと暖かいいお天気の続くこのごろを飛び出して行きたい行きたいという心をおさえつつ、毎日お部屋の中ばかりでおけい古をしている私たちや子どもら真黒のお部屋の中に閉じこめられているような気がします。恐ろしい犬：狂犬が飛び出したのです。私たちの第二のお部屋あの大自然

の広い広いお部屋の中に突進して行くことができないで大閉口、子どもたちをよるこばすべく、スミレ、タンポポ、レンゲ草等きつとたくさん咲き揃って待っていてくれることでしよう。きれいな美しい花をつくって見せてくれる子どもたちの姿を思い出しただけでも、行かないのが残念です。恐ろしい犬!! 狂犬!!

今日このごろの箕面は犬を見ると神経過敏となっています。この不安な日が早く退くようにそして黄色く、赤く色どられた美しい草だたみの中で小鳥のようにとび回ることでできるのかな春の日の一日も早く来るように……と静かな心で祈りつつけましよう。

◇水撒き

治子(池田)

KちゃんYちゃんお手々にジョロをさげてうれしそう顔で参りました。小さいのや大きいの、それに中位の、幼稚園はみる間にジョロ屋さんになりました。ちゃんとそれぞれ木フダがついています。どの子も水まきは好きです。自分のジョロが気になるらしくそばを離れない子がたくさんあります。ちゃんとS君は手を取りました。なるべく使う時でなければいじらさないようにつとめねばならないと気がつきました。朝礼拝をすますとジョロの用い方を話してやりました。桶に水をせんぐりせんぐりくんで、それをすくうのです。

狩野さんのおばあさんは「まく場所を定めてやらねば」などと案じていられたがまあ今日はためしに、どんな工合かさせて見ましたら、安心々々、よくよくまきました、神主様の前まで。

きつとよろこびなざるでしょうと思いました。しまいには水の方に故障をおこしてきた砂やゴミがどっさり上がって来てもう使えません。幸いほとんどすんだのですからいいのですが……。

小村さんが昨年支那へ行かれたたくさん絵を書かれた内の、幼稚園を一枚持って来て下さいました。目のさめるほどきれいなを……説明など聞いて子どもたちはよろこびました。

◇初夏の植物園

小澄（宝塚）

六月五日、グラランドの宝塚植物園に行きました。薄く曇って、このごろでの、いい回遊日和です。みんな久し振りのグラランド行きです。今日は皆仲よくお手々をつないで、喧嘩が一つもなかったようです。うれしく思いました。あの、歌劇場（新温泉の）に行く高い路をいつも通ります。両方の樹々が、このごろは若葉のトンネルです。そして、桜ん坊……青い梅の実……。回らない舌で。

『てんでえ、たくらんぼ、あるよ』と『言ったり』あとこ、あとこ

（あそこ）ますい（丸い）のん、なってるわ』と、敬ちゃんと、

小ぢ々な梅の実を見付けたりします。葉っぱのかげに、かくれん

坊をしているようなのですけれど、よく見付けては、そのたびに、いちいち立ち止まって、教えて呉れます。

音楽学校の前まで来ますと、今日は、きれいな、吹奏楽器の音もしていました。コーラス、ピアノ……いつも。そこは振り返り、振り返り通ります。

『……ね、きれいなお声……』と言いながら通り過ぎました。その、とうとう坂を下りると西宝線のガードです。そうしてトロツコのみちを植物園の方へ……。

温室の前を通る時は、ガラス越しに、赤、朱、紅、うす紫など……の花が緑の葉に交って、皆の視線をひきました。いつか、こわいお顔のおじさん（ここの植物園の会社の社長さんであったそうですが）が出ていらして、きれいなお花を、皆に下さったり、秋には、菊見をしたりしたところですよ。